

製品名: N2DL2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14366**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	27kDa

抗原情報

遺伝子名	ULBP2 N2DL2 RAET1H UNQ463/PRO791
別名	
遺伝子 ID	80328.0
SwissProt ID	Q9BZM5
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

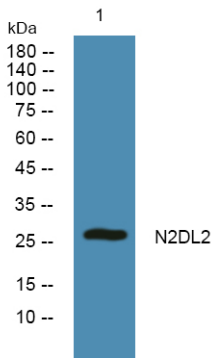
この遺伝子は、ナチュラルキラー（NK）細胞上の NKG2D 受容体に結合して複数のサイトカインとケモカインの放出を誘導する主要組織適合遺伝子複合体（MHC）クラス I 関連分子をコードしており、NK 細胞の動員と活性化に寄与する。コードされたタンパク質は

さらに処理されて成熟タンパク質が生成され、グリコシルホスファチジルイノシトール部分を介して膜に固定されるか、分泌される。多くの悪性細胞は、コードされたタンパク質を分泌することでNK細胞による免疫監視を回避する。この遺伝子は、6番染色体上の複数のMHCクラスI関連遺伝子のクラスターに位置する。[RefSeq提供、2015年7月]、機能: 少なくともULBP1およびULBP3とともに、NKG2D受容体のリガンドとなる。ULBPは、初代NK細胞において複数のシグナル伝達経路を活性化し、サイトカインおよびケモカインの産生をもたらす。ULBPリガンドがNKG2Dに結合すると、カルシウム動員とJAK2、STAT5、ERK、およびPI3Kキナーゼ/Aktシグナル伝達経路の活性化が誘導されます。CMV感染細胞では、可溶性CMV糖タンパク質UL16と相互作用します。UL16との相互作用はNKG2D受容体との相互作用を阻害し、CMV感染細胞が免疫系から逃れるメカニズムを提供します。UL16はまた、ULBP2が細胞表面に到達しないように、ERおよびシスゴルジ体に保持されます。、その他: ULBPは、 $\alpha 3$ ドメインを含まず、膜貫通ドメインも欠いているため、拡張MHCクラスIスーパーファミリーの珍しいメンバーです。ペプチドを提示する可能性は低いです。、類似性: MHCクラスIファミリーに属します。、サブユニット: CMV糖タンパク質UL16と相互作用します。 $\beta 2$ ミクログロブリンに結合しない。、組織特異性: さまざまな種類の癌細胞株および胎児で発現するが、正常組織では発現しない。、

研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;

画像データ



SW480細胞溶解液のウェスタンブロット分析、N2DL2ウサギポリクローナル抗体を1:1000に希釈し、4°で一晩